

阪神淡路大震災の時も、週一便、被災地へ野菜や食材を届け続けた「勇気野菜プロジェクト」。

今回も5月9日の第一便では軽トラックと、満載の野菜や食材の両方を被災地に届けました。トラックはいま被災地を走り回っています。

これは仲間に送った第2便（5月26日）の報告手記。被災現地で支援活動する二本松の元八百屋仲間や、有機農業を志してきた宮城県南の仲間もつながりながら、先ずはできるところから、やる！・・・

6/1

忙しさにかまけて報告、ブログもままになりません。森まさこ議員のツイートをまとめた方がいます。震災以来10名を超える餓死者がいるようです。

<http://togetter.com/li/141231>

28日早朝、南相馬のサポートぴあに物資をとどけました。施設長の郡さんにお話をお聞きしました。まだ市内のお店も閉店しているところが多く、品物の届きにくい状況のようです。さらに、避難していた方たちが自宅に戻ってきはじめているのですが、今度は仕事がなく、経済的にも困窮し始めているということでした。

避難所でできる食事もおにぎりやパンに味噌汁が多く、生野菜への要望が非常に高いとのこと。

お百姓らしきおじさんが、うれしそうにキャベツを持って帰られました。

百姓が自分で育てた野菜を自分でも食べることができない、ましてや売ることなどもない、という事態なのです。

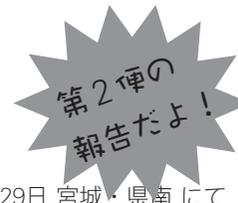
長いサポートが必要と感じました。

放射線値が非常に高い飯館から南相馬に通じる62号線を走りましたが、途中車内でさえ10 μ Sv/hを超えるところもあり、下るにつれ値は下がっていきました。サポートぴあでは0.27 μ Sv/hでした。

サポートぴあから海側に1キロほど走るともう津波に襲われた地域です。東北電力の鉄塔は寸断され、あ、これが福島にいた送電線か、とおもいました。がれきの撤去が進められていますが、まだ貨車が家に突っ込んだままだったり、道も埋められてはいますが、陥没がとてつもなくひどかったですね。

船も田畑の上に放置されたままでした。

・・・続く、かな。 (can)



カンパ・志しは表面をみてネ!



5月29日 宮城・県南にて
『耕す者の祈り』

「はぁ…」というMさんの吐いたため息の先には2.5マイクロシートベルトと表示されたガイガーカウンター。

Mさんが連れ合いと共に宮城・県南地域で自然農を始めて20年近くになる。

空間線量は0.3マイクロシートベルト。

今回も二本松、飯館、南相馬に立ち寄りながら此処に来たけれど、前回、前々回に比べ放射能は僅かではあるが、各地共徐々に下がって来ている。

でもMさんの家の前の草むらで2.5マイクロシートベルト。

国の基準値がどうかではなく、Mさんは今年は野菜を作らないことに決めた。

たくさん思い、悩み、迷いがあったことと思う。

この人は食べてくれる消費者のことを真剣に思って野菜を作ってきたのだ。

用意して下さったお昼ご飯を頂く。手作りのマヨネーズ、ジャム…パン。

「野菜が無くてゴメンね。」

「いや、大丈夫だよ」

「ずっと野菜食べて無くて…」

「そっかぁ〜」（そうなんだ…）

知らなかった…。

胸の中が悲しい気持ちでいっぱいになり、後から怒りが追いかけて来た。

辺りを見渡せば、長閑な田園と里山の風景、道端に咲く花々。

此処に来る前に立ち寄った飯館村の美しい風景を思い出す。

でも近づけば、牛のいない牛舎、耕作の放棄された田や畑。

これから向かう石巻の炊き出しチームに持って行く野菜から、遠慮するMさんに少しでも貰って頂くことにした。

運んで来た野菜の半分は南相馬の原発30キロ圏で唯一活動している障害者施設『ピーナツ』（彼らが地域支援センターの役割を果たしている）に置いて来た。

今、出来ることを精一杯やらして貰っている。

でも、たかだかこれだけ。

たかだかこれだけでも必要とされている。

だから、これからも車を走らせる。

Tさん（Mさんの連れ合い）、お体の具合は如何ですか？

退院されて落ち着かれたら、また訪ねて行きたいです。

(杉)